

# ロシア極東の窓 ウラジオストク



鈴木 俊弘 (すずき としひろ)

在ウラジオストク日本国総領事館副領事

1973年名古屋市生まれ。97年帯広畜産大学卒、同年北海道開発局入局、04年から2年間農林水産省に出向、主に土地改良事業に従事。2011年3月外務省出向、在ウラジオストク日本国総領事館副領事。

## アジア太平洋への窓口

ウラジオストク市は、ロシア連邦沿海地方の南部、日本海に突出するムラヴィヨフ・アムールスキー半島の南端に位置し、金角湾と呼ばれる深く入り込んだ天然の良港を中心に広がる坂の多い港町です。

札幌市とはほぼ同緯度（北緯43度、東経132度）にあり、日本より西側に位置するにもかかわらず、ロシア国内の時差設定から日本より2時間進んでいます。

1860年に海軍基地として建設されたウラジオストクは、71年にはロシア極東の主要港に、さらに90年には沿海州（38年に沿海「地方」となる）の州都となる等、ロシア・ソ連の太平洋への玄関口として発展しましたが、52年には軍事上の理由から閉鎖都市となり、その実状はベールに包まれてきました。しかし、89年にソ連市民に、92年に外国人に開放され、現在に至ります。その間、日本の領事館は一時閉鎖、ナホトカでの再開を経て97年よりウラジオストクに設置されています。

現在のウラジオストクは、太平洋艦隊基地、商業港、漁業港とともに、多くの高等教育機関や研究機関・文化施設を擁するロシア極東最大級の都市であり、沿海地方の政治・経済・文化の中心となっています。また、2012年9月にはルースキー島でAPECサミット<sup>※1</sup>が開催され、名実ともにロシアの「アジア太平洋への窓口」として発展しつつあり、諸外国との交流も盛んです。



シベリア鉄道ウラジオストク駅

※1 APEC(Asia-Pacific Economic Cooperation)サミット  
アジア太平洋経済協力首脳会議。

## ウラジオストクの展望

2012年のAPECは、金閣湾の南側に位置するルースキー島で開催されましたが、この島には5千人程度の住民といくつかの宿泊施設、ソ連時代の軍事遺構がある程度で、インフラは整っておらず、全く一からの会場整備が08年から行われました。

メイン会場は、APEC終了後、極東連邦大学新キャンパスとなりましたが、市内にあった大学の移設は、整備の遅れから当初の予定より1年遅れた1年後の13年9月となりました。このほか、APECに合わせて建設されていた二つの五つ星ホテルや水族館、バレエオペラ劇場など、オープンが間に合わなかったプロジェクトが多数あり、APEC終了後しばらくは、責任の追及や建設費の横領疑惑などのニュースが世間を騒がせていました。

しかし、メイン会場、空港から会場のルースキー島までの幹線道路、そして三つの大きな橋は完成し、町の外観はダイナミックに変貌を遂げました。一方で、これらのインフラ整備は、市民が求める、より生活に密接したもの（生活道路の整備や幼稚園の新設など）ではなかったことから、大部分の住民から不満の声が上がっていたことも事実です。

現在は、APEC関連施設の建設も落ち着き、沿海地方行政では、次なる発展を目指してエネルギー、漁業、農業などの分野で新しいプロジェクトの推進を図っており、諸外国からの投資と技術協力を求めるために、関連する会議や協議会の開催が目白押しとなっています。



金閣湾と金閣湾横断橋(中央奥の山陰はルースキー島)

エネルギー分野では、ウラジオストク近郊においてLNG工場の建設や石油化学コンビナート、石炭ターミナル建設などの大型プロジェクトが進行中であり、漁業・農業は生産・加工・出荷を一括して行う大型クラスターの設置を検討しているようですが、政治主導の中、全体像がまだはっきりしていません。これら大型プロジェクトが順調に進めば、ウラジオストクはさらなる発展を遂げることでしょう。

## 学術交流

極東最大規模を誇る極東連邦大学では、名実ともに認められる国際大学を目指すため、各分野で海外の大学や研究機関との学術交流・技術協力を進めており、その一環として2012年3月に日本の東北大学と学術交流協定を締結し、13年2月には（独）土木研究所寒地土木研究所とも海岸工学、コンクリート技術及び道路舗装分野での研究協定を締結しています。ソ連崩壊後、ロシアでは科学者など学識者の国外流出が激しく、極東では現在も高学歴者の都市部への流出に歯止めがかからないことから、高度な教育を受けた人材の輩出とともに、高学歴者が地域に定着できるような社会・産業の発展が望まれています。

日本からの留学生のほとんどは、極東連邦大学の「ルースカヤシコーラ」と呼ばれる外国人向けのロシア語科へ入学します。函館にある極東連邦大学の分校や日本各地の大学から、毎年多くの学生が訪れ、3カ月の短期から1年程度の長期にかけてロシア語を勉強していきます。極東連邦大学では、世界各地から学生



2012年APEC会場の極東連邦大学

を集めるため、英語での授業を行う大学院等も設置しており、今後はロシア語だけでなく、各学術分野を学ぶための日本人留学生も増加するかもしれません。

### 知られざるウラジオストクの観光

ここウラジオストクでは、毎年5月に「太平洋国際観光展」と呼ばれる観光博覧会が開催されており、毎年9月に開催される沿海地方物産展とともに賑わいを見せています。これらには、韓国・中国といった近隣諸国とともに、毎年いくつかの日本の自治体が参加し、各地の観光や物産をPRして、当地の日本サポーターの注目を集めています。

日本ではあまり知られてはいませんが、ウラジオストクを含む沿海地方はレッドデータブックの絶滅危惧種であるアムールヒョウの自然保護区や海獣などの国家海洋特別自然地区などを多く有しており、まだ未開発ではありますが、実は観光資源が多くあります。

しばしばウラジオストクは、シベリア鉄道のアジア側の出発駅として素通りされがちですが、戦後日本人抑留者により建設された建築物群や市内の地下に広がる核シェルターなどの軍事施設の遺構を巡るツアーも密かな人気があります。地元住民の間では夏場にナベレジナヤと呼ばれる海岸通りの広場で、メドベートカ（熊エビ）と呼ばれるエビを食べながらビールを飲むことが定番となっており、実際に体験してみましたが、エビと生ビールの味は格別ですし、港町の開放的な雰囲気も味わうことができます。

現在、市郊外に建設中のカジノゾーンや世界最大規



2013年10月オープンのおペラ・バレエ劇場

模の沿海地方水族館（2014年9月オープン予定）、エルミタージュ美術館の分館（設置計画中）など、今後期待される新しい観光資源も多くあります。13年10月にこけら落としが行われたオペラ・バレエ劇場では、日本人ダンサーが所属し、プリンシパル<sup>※2</sup>に選ばれるなど新しい話題も豊富なため、航空券の高さやサービスの質の低さなどの限定要因さえ改善されれば、数年後には日本からの観光客が増加する可能性もあります。

### ロシアの査証制度

現在、ロシアを訪れるには入国査証を取得する必要がありますが、2013年10月に発効した日露査証簡素化協定により、日本からロシアを訪れる日本人に対する査証取得手続きが簡素化されました。ロシアではすでに中国人団体観光客（13年に沿海地方を訪れた中国人観光客は100万人以上）や韓国人（60日以内の滞在）についてビザを撤廃しています。また、09年から開始されているフェリー利用客に対する3日間のビザ免除制度や、現在検討されているトランジット客<sup>※3</sup>に対する3日間ビザ免除制度など、ロシア政府は外国人観光客誘致のために制度面での緩和の取り組みを進めています。この点では、ロシアは日本よりも積極的に感じられ、観光により力を入れていることがうかがえます。皆さんも日本から2時間のロシア極東の窓、ウラジオストクを一度訪れてみてはいかがでしょうか。

### 北海道への旅行者

沿海地方に住むロシア人は、冬場にニセコヘスキーを訪れたりしていますが、現在はそれほど多くはありません。もう少し増えてもよいのではないかと感じています。

極東のロシア人は海や森などの自然が好きで、住民の大部分が所有しているダーチャ（農園付き別宅）での家族・友人との週末をこよなく愛しています。野菜や花を育てたり、キノコや木の実の採集が好きで、日

※2 プリンシパル(Principal)  
バレエ団のトップの階級にいるダンサー。

※3 トランジット(transit)客  
航空機等の経由地での一時寄港する旅客。

本食も好んで食べ、日本料理レストランはこちらでは割高ですが、とてもはやっています。お酒はビールやウォッカ、コニャックが好きですが、日本酒も一部の層ではステータスとして好んで飲まれています。バーニャ（ロシア式サウナ）に入ったり、釣りや狩猟をしたり、キャンプをしたり、屋外でシャシリク（ロシア風バーベキュー）をするのが好きです。また、極東のロシア人は日本車をこよなく愛し、多くの人が空手や合気道をたしなみます。こうしてみると、北海道民とそれほど変わらないように感じます。

ロシア人は日本人と比較してよく長期（1～2週間）の休暇を取ります（おかげでカウンターパートが休むと仕事が滞ります）。学校も6月から8月の夏休みのほか、2、3週間の冬休みと、1週間程度ですが春休み、秋休みもあります。長い夏休みには子供はサマーキャンプへ行きますが、中には海外のサマーキャンプへ行く子供もいるようです。極東のロシア人は、休暇に中国、韓国、タイ、日本、ベトナム、インドネシアなどへ行きます。日本の中では、関東、関西の次に、交流の活発な日本海側を訪れる数が多いですが、北海道、沖縄も訪れています。

北海道と極東ロシアは共通するところもあり、そして極東にないもの（大きなスキー場、安全な野菜や新鮮な魚介類など）が北海道にはたくさんあります。

実は、ロシア人は皆さんもご存じかと思いますが、以前からかなり北海道を訪れています。私の勤務した稚内や網走でも船員をたくさん見かけましたし、札幌、小樽へも中古車ビジネスなどで来ています。彼らの地元受けは必ずしもよくはなかったと記憶していますが、極東のロシア人は北海道の皆さんが思っている以上に日本のことを知っており、日本のファンがたくさんいます。

ウラジオストクは半島に造られた町であるため、驚

くほど狭い範囲に多くの方が住んでおり、彼らが休暇で北海道を訪れ、広い大地ときれいな空気、そしておいしい道産品を体験すれば、開放的な気分になり、北海道のファンに、そしてリピーターになるのではないかと思います。

### ウラジオストクでの生活

2011年3月にウラジオストクへ家族同伴で赴任した当初は生活の立ち上げに苦労しました。特に、断水、漏水、停電など、日本では滅多にないことが頻繁にありますし、生活に必要な車の登録や子供の幼稚園への入園手続きも、日本のようにスムーズに進みませんでした。

2年前は路面電車やトロリーバスなどが市内中を走っていましたが、中心部では渋滞緩和のため撤去され、幹線道路の舗装も改善されました。しかし、支線道路や生活道路の舗装状況は悪く、穴だけならまだしも、時にはふたのないマンホールも見かけるほどです。舗装修繕や上下水道の修理工事のため、市内の至る所で道路が掘り返され、頻繁に起こる大小の交通事故、また、なによりも車の多さによると思われるひどい渋滞はなかなか改善されません。物価も安くはなく、10万円に満たない平均月収の割には、生活物資は日本と変わらないか、または高いぐらいです。

しかし、ロシア人は、ダーチャでの家庭用野菜の栽培にはじまり、家の修繕から車の修理、さらには別荘の建築まで自分で行うなど、生活力は現在の日本人では到底かないません。ロシアでの生活を通じて、日本がいかにか恵まれているかということを実感するとともに、ロシア人のたくましさも日々感じています。

近年、ロシアはアジアへ目を向け、交流の窓口を開いています。両国の交流の窓口としての極東ウラジオストクに、今後も期待したいと思います。



アムール湾側にある小さなヨットハーバー



市内スーパーのレジ